

ボランティア養成講座の ① ③ ④

まずはお読み下さい。

ボランティア活動を継続的に続けて行くためには、活動の趣旨や必要性について理解と賛同を広げていく事が重要です。講座の開催によって多くの人の目に触れ、活動の必要性をPRし、協力者や理解者を増やしていきましょう。

○開催の手順

計画的に無理なく、楽しい講座を企画してみましょう！

① **どんな講座にしたいのか、まずは目的と形式を考えましょう。**

目的:メンバー募集、部分的な協力者の募集、理解者を増やす など
形式:講義、講演会、体験会、見学会 などがあります。

チェック

② **広報について考えましょう。**

- 公共施設、新聞、市民活動、企業、新聞店、学校、社協だより、社協ブログなど、社協を通して依頼をしていきます。
- 開催日の約1ヶ月前に配布、掲載してもらえる準備をしましょう。

チェック

③ **規模を考えましょう。**

募集対象者、定員数を検討しましょう。



チェック

④ **予算**

開催に必要な消耗品費は社協で負担します。
ボランティア活動助成金も活用して下さい。
受講料などの工夫もあわせて検討してみましょう。(実費、講師料、テキスト代 など)

チェック

⑤ **日時、場所、講師について検討しましょう。**

ふれあいセンターをぜひご活用ください！

チェック

⑥ **内容を詰めます。**

募集の際、興味や関心をひく内容を積極的に取り入れてみましょう。
活動とは少し離れたお楽しみを取り入れ、楽しい雰囲気をつくると申し込みのハードルが下がるかも知れません。

チェック

⑦ **申し込み**

日中仕事をしている方等の事情に配慮して、社協が申し込み受付を協力します。
※社協名義申請も可能です。

チェック

○新メンバー受け入れのコツ

新たなメンバーとともに、活動を続けて行くために

① いろいろな参加のカタチ

- その人にあった役割をつくり、一人ひとりにあった参加の仕方をアドバイスできると入会のハードルを下げられます。
- 活動の中で必要な役割を明確化、細分化し、だれでも参加しやすい状態にしておきましょう。
適度な役割分担は責任感を与え、本人の達成感や充実感につなげる事ができます。
- 寄付のみ、場所のみ、ものだけ。こういった少しだけの協力も、活動の理解者・賛同者として積極的に取り込んでいきましょう。
また、寄付等を受けたら、どう活用したか報告を忘れないようにしましょう。

② 関係を深める（グループ内）

- 参加日数が浅い人にとって、会員同士の人間関係はとても気になる場所です。メンバー同士の人間関係、個々の性格などはベテランが仲介をすることで壁も取り除くことができるでしょう。顔見知りや話せる人が増えれば、次の活動にも参加しやすくなります。
- 活動の歴史や活動中のハプニング、逸話、武勇伝などをみんなが共有していくことで、メンバーとしての仲間意識や自覚が生まれていきます。
- 専門用語やグループだけの特殊な言葉を使うときは、疎外感を与えないような配慮が必要です。

③ 関係を深める（外部）

- 活動先の人たちとの関係をつなぐことも重要です。（施設職員、利用者、地域住民、活動のキーとなる人など）
活動先の人たちとの関係を深めていくことによって信頼関係が生まれ、「期待にこたえたい」という想いや責任感を持って活動することができるようになります。

④ 運営の仕方を共有する

- 会の財政状況や方針など、運営方法について共有することで、会への信頼と親密さを深めることができます。
- 判断に迷う場面では、同じメンバーとして意見をきちんと聞き、会としての考え方やメンバーとの合意の取り方を分かりやすくしておくことで、個々の意見を出しやすくするとともに、役員などとの役割を明確にする事ができます。

